

井口敬守輯

國學初入門

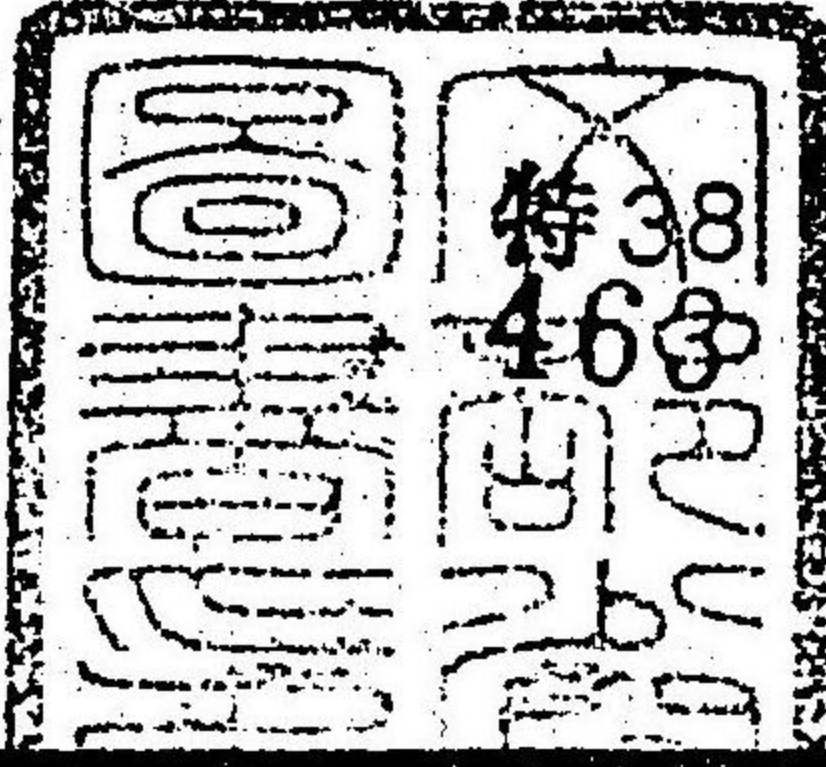
國學初入門序

世の東の古藝の事ハ皆神の御灵に

依^ヨ 夫^ソが中^{ナカ}に我^{ワガ}

皇^{ミコ}国^{クニ}を掛^{カケ}卷^{マク}も可^{カシ}畏^コき神^{カム}呂^ロ岐^キ

神^{カム}漏^ロ弥^ミの生^{ウミ}成^{ナシ}給^{タマ}へる御^ミ国^{クニ}ヲ



しつ日の大神ヒ廼生坐るオホカミノアレマセクニ国に
在アレを何ナニ一ツ欠カる事コト勿ナく足タらぬ
事コト南オホく大御神カミの御言任ミコトヨサシの
隨意マニク御代ヨ々々の天皇命スノラミコトカミ神
長柄ナガラの道ミチを受ウケ継坐ツギマシる神祇アマツカミミツカミ

と敬井ヤマ以マツ奉マツりて政知給マツリゴタマへり如此カク
貴タフトき御国ミクニ小生ウマま出イデし御民ミタミ
等ラ神等カミタチを崇敬奉井ヤマヒマツら修マツえ
延エ有アルほじかりけヒツグリるを三粟ナカツの中
世ヨより邪道ヨコサノミチの廣ヒロく其道ソノミチを

可^{ウマシ}怜^シ道^チとたの^{トシ}とて年^フ經^フふ

まふく^{ブン}文明^{メイ}開^{カイ}化^イの世^ヨに立^{タチ}

えり^{イニシ}古^{ヘノ}道^{ミチ}二^ニ度^{フタ}行^ビハ^{オコシ}る^ヲを甚^{イタ}く

喜^{ウレシ}と^{アガ}と^{マナ}ら^ビ六^ムは^シひ^シく^ク吾^ワ學^{ガク}を

兄^セ井^イ口^ク敬^{キョウ}守^{シュ}の^ノ大^{ダイ}人^{ジン}伊^イ石^シ石^シ上^{カミ}

古^{フル}と^{フミ}記^ミ等^ラを^{サト}俗^{ヒコト}言^モ以^{ヌキ}て^{カキ}拔^{ヒキ}書^{カキ}

して^{ユド}童^モ蒙^{ココク}に^ニ皇^{タカ}国^カの^タ高^タく^{フト}尊^ト

き^{ユエ}由^{ヨシ}緒^{イチ}を^{ハヤ}神^イ速^チく^{ハヤ}知^シら^シめ^ンん

と^{コノ}此^{ヒト}一^{マキ}巻^{マキ}を^{ツク}綴^{ツク}り^{ツク}し^{ツク}る^{ツク}形^{ツク}り^{ツク}鹿^{ツク}麋^{ツク}

畧^{ラク}勿^ナ見^ミ給^{タマ}ひ^{タマ}そ^{タマ}よ^{タマ}明^{メイ}治^ジ六^{ロク}年^{ネン}

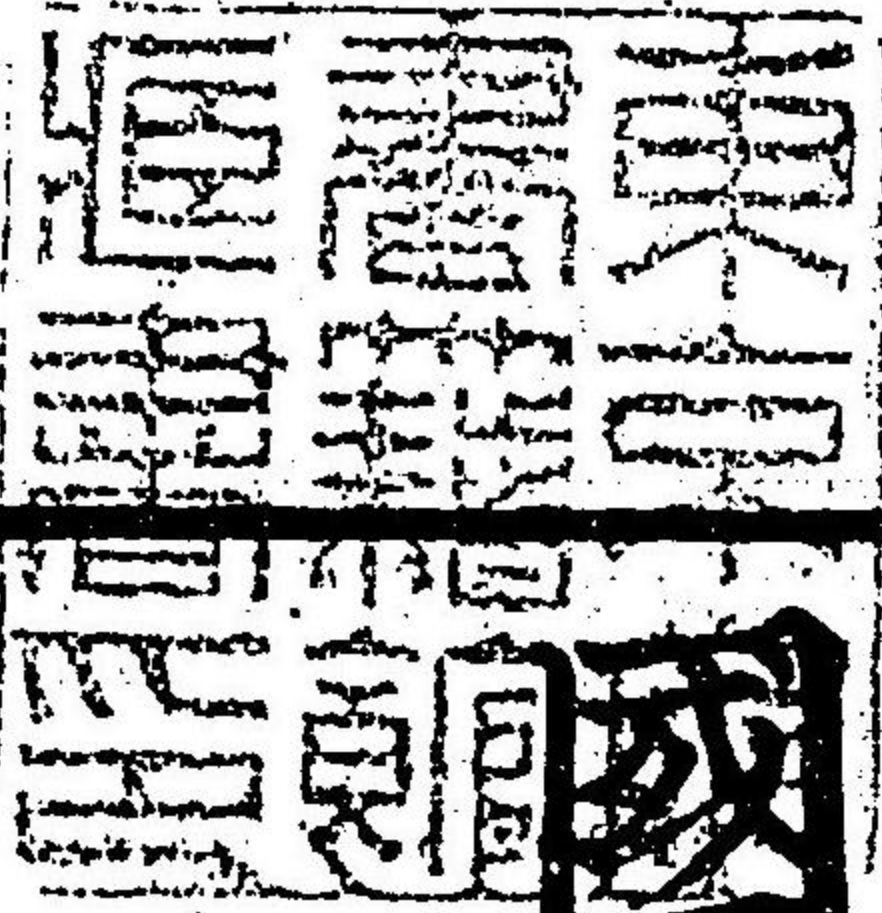
三月マヨイ斯言カクイフハ播磨國姫路の
里サトに住スミふ御民ミタミ

山下真柱

國學初入門

井口敬守謹撰

天アマの下ノ邦クニハ多オホけと二柱ニハしら
御祖ミヤの神カミは生ウマこまふ
神カミ延ノ御ミくは日本ニッポン小



生うまき出いるでるる其その中ちゆうに
 大おほ神かみの産むす霊ひの産むす霊ひの大神おほかみ
 奇くく妙まう成なる御ご霊らをうけ受うて
 人ひとと字なまされれ賽むくいはる
 國くにをあてまにそむむ背そむのお怒こ様やうふ

産う土ふ神かみ月つき日ひ先せん祖ぞのく霊らに
 朝あさ夕ゆふ拜まゐ禮らひおまあまのあままな
 天あめのあ石い戸とをあらわるあ面おも白しろを
 宇う須す賣め神かみのあ俳あ優まの
 真ま鈴すずのあおまをあ聞き時ときを

悪魔障碍も近よらば
身滌被て來年毎に
六月十二月の晦日ふ
悪事災難罪事せむを
被ひ給へば夕ぐせふ

氏神様へはむりつら
身滌被を祓ぐべし
憶えやうきの過り事も
積りけのせえ咎とぬる
被ひまゝが神のまぢ

国守秘入門

月の朔日十五日に之
 わきて拜めよ神等を
 蠶や五穀の物種を
 大宜津比賣の御身より
 出み物賦天照を

日廼大神を見そむ
 此世の世に人の世の
 命嗣をまゝに
 取らけまゝに久方能
 天の安田に植たまふ

是耕作の元首なり
 少くも物種の起原なり
 大年御年若年能
 神と五穀に虫はけを
 豊熟せよと守らるる

雨や日和を祈る
 貴船や丹生を祭る
 風の主宰の大倭の竜田
 旅行とんば阿須波神
 真柴手向く門出せよ

天兒屋根や久延毘古
 神の學問の道々哉
 勸めぬる神ぞい
 學文を好むる童蒙ら
 齋き奉るよ此神を

舎を護る屋船の神よ
 竈戸神の奥津雌雄
 井筒や水を主とふ
 水波賣神御井神
 厠の神八垣安比賣

手置帆負比古挾知の
 神ハ功匠の祖神なり
 醫者の祖神ハ大名持
 少比古那の神トシ
 酒の祖神も古能神トシ

鏡造りと石凝戸邊
 玉の元首と奇明玉
 麻績む事ハ長白羽
 帛織初と棚機比賣
 絹に種々文染形と

天あめの羽は槌つち神のかみを
 壽いのち命を守まもるは石いし長なが姫ひめ
 刀やいば脇わき差さととくく丁ていのの双ふた物もの
 天あめ目ま一ひと神のかみをを一ひと神のかみをを一ひと神のかみを
 商あや賣う守まも護ごをを大あや市う比ひ賣あや

船ふねの守まも護ごりは住すま吉きち神のかみ
 漁いし師しの祖そ神のかみハ事こと代しろ主ぬし
 塩しほ筒つづ翁おきなみみ煮に給たまひひ
 塩しほの始はじめりは可か古こ以もううべ
 橋はしの通とほひひも神のかみののわわぎぎ

山やまよ生おひ立た海うみより成なるも
神かみよ恵めぐみの種たねかぎりし
異い國こく嶋しま々々漢かん土とよりも
貢こうそとふく神かみよわさ
君きみの御み稜りやう威いと仰あやげし

神かみよ御み蔭かげや君きみの恩おん
譬たとへかごとく天あま壤つらを
曾そ岐ぎ閉への極きよく艸そうも木きも
鳴な雷らいやたの鳥とりも
君きみの勅しやく命ことと聞き時ときを

下居向卧伏従ふそ
非情の艸木鳥獸も
在斯事ハ瓢葛も
天津日嗣女高御位
遠き神代の昔より

變動如き代の例なり
此の如くは國王が
及ハズりけふ證なり
斯程たゞ皇君の
民が生息一億兆を

如何で詔に背くんや
争で教訓違えんや
自が意ふ横しぬあふを
頓て其身に賽い來ふ
地震雷鳴嚴風吹も

流行病疾や頓死をするも
神の逆鱗と可之古女よ
神と君がくさ巨恩と
先祖のおむと親み恩
忘却の様に旦夕に

自々が家業をせげみ
 家内和親出情し
 繁榮とんえ平民を
 忠孝とて外に好し
 世界萬國いと多けしこと

日本はまことる邦は
 天地開闢教は道を
 神々御典を讀て知まじ

國學初入門終

我友井の教書の著者此の書は
 古来の新學はしりたるものすれど
 其愛かいつらんといはれ玉ふ
 皇神なるは久しよらやと妙に
 言へりしははるかに女を

1021

1021

まつたよふかひをばへていふは
 おのひをうけてかく物しるふ教書り
 しみじき功ふおまを有ける故
 そのより一室後方ぬ去るる
 室泊よとある 罔ひる保

明治六年酉十二月御免許
 今 七年戌一月 刻成

一〇二

飾磨縣

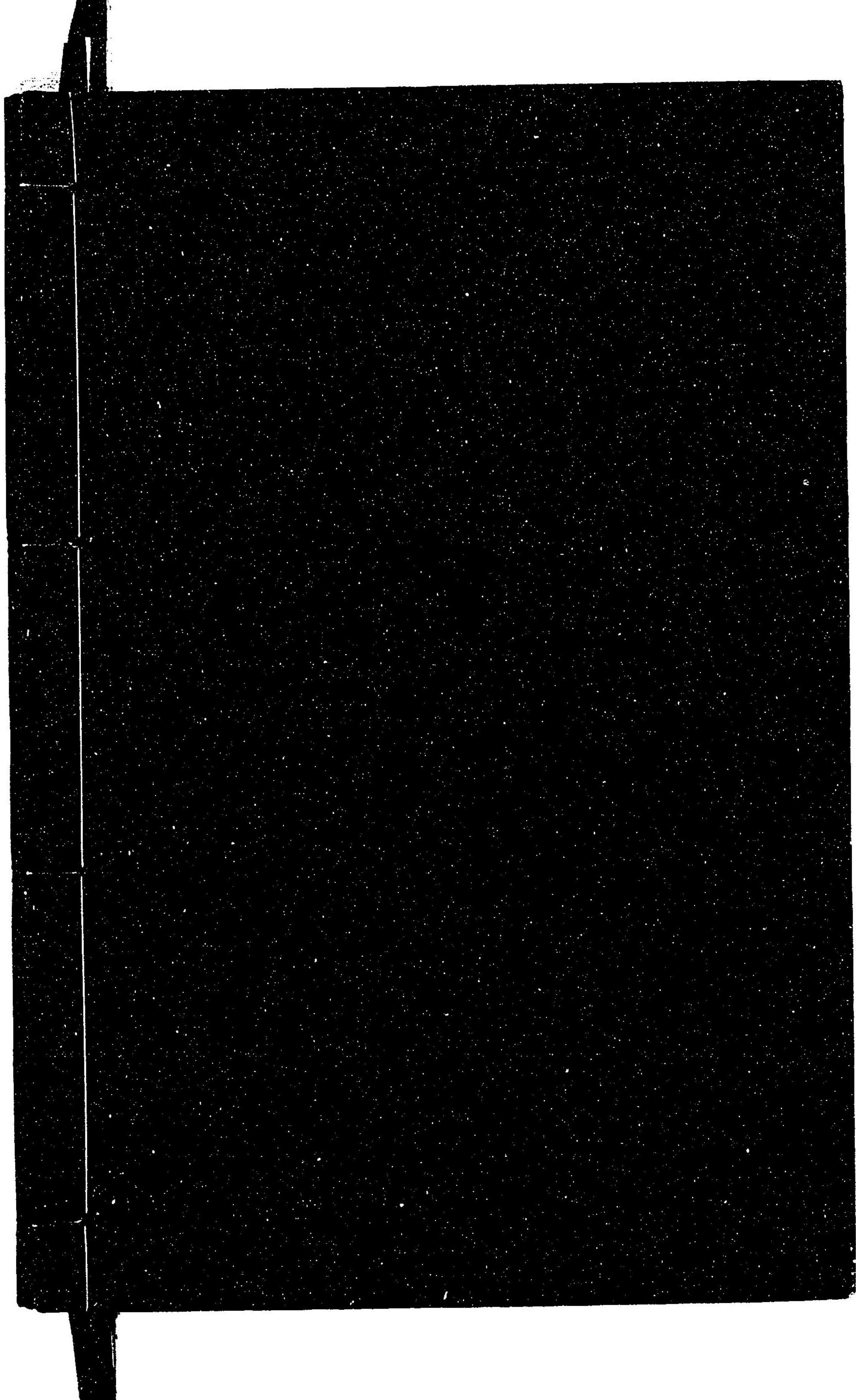
著述人

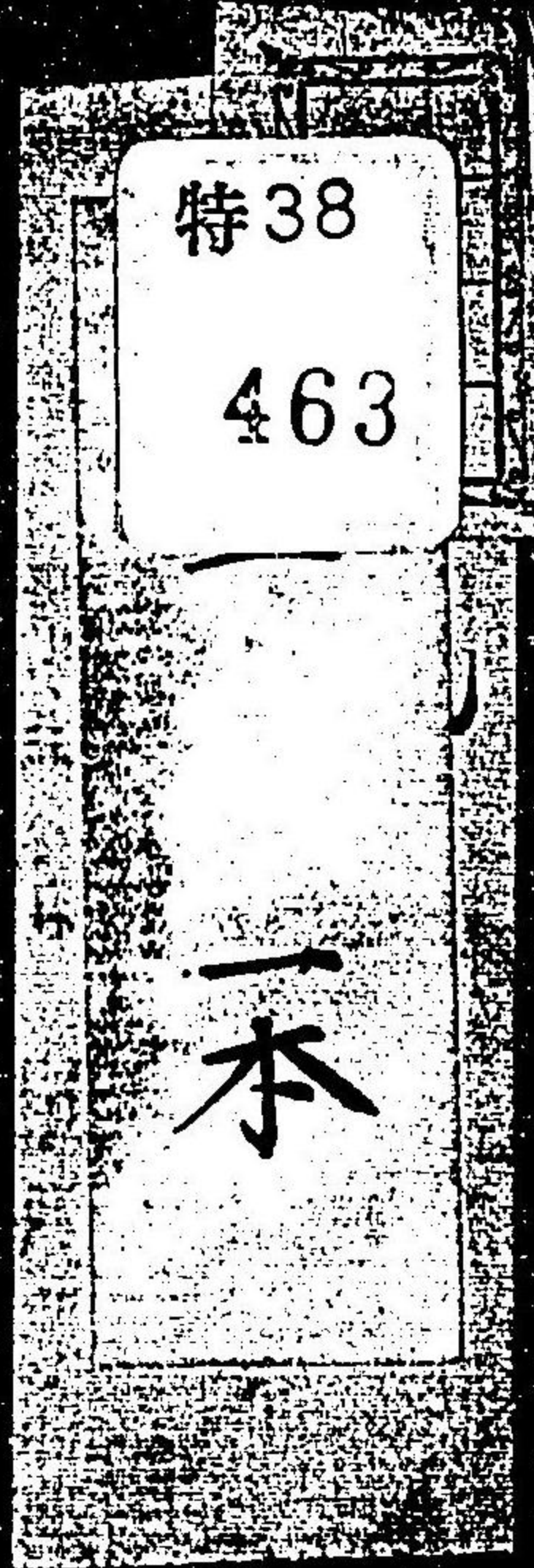
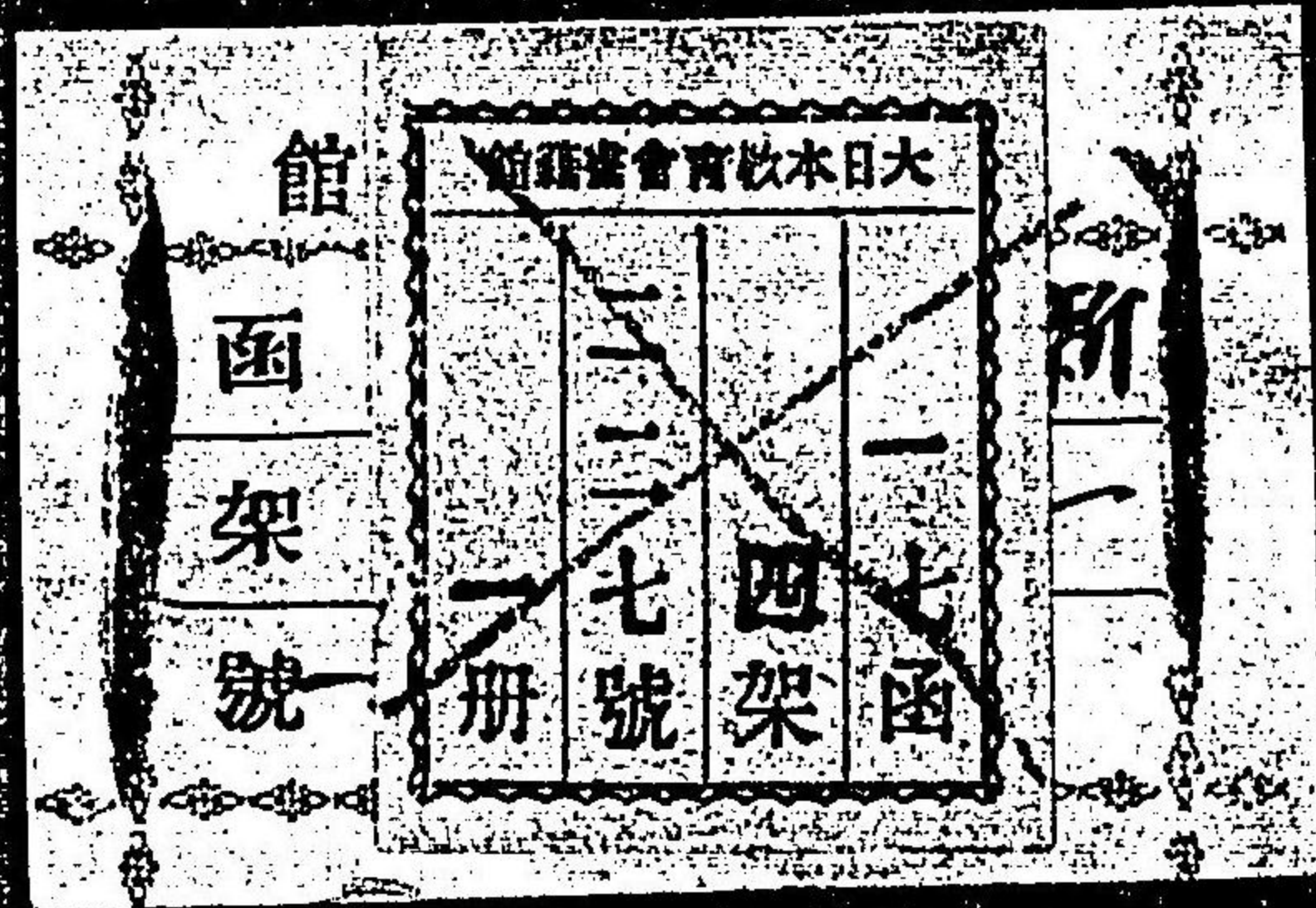
井口敬守

大阪心齋橋南本町

文繡堂

三木平七





013998-000-7

特38-463

国学初入門

井口 敬守 / 著

M7

ABB-0250

